




避難のタイミング

早めの避難

浸水が始まってから避難するのはとても危険です。
避難情報にしたがって、浸水前の早い段階で安全な場所に避難しましょう。

市から避難情報が発令された時は!!

警戒レベル	市が発令する避難情報	住民がとるべき行動
5	緊急安全確保	すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。直ちに身の安全を確保する行動をとりましょう。 
～ <警戒レベル4までに必ず避難!> ～		
4	避難指示	河川の氾濫で浸水が発生するおそれが高まっています。危険な場所から全員避難を開始し、早めに避難を完了させましょう。 
3	高齢者等避難	河川の氾濫で浸水が発生するおそれがあります。高齢者や障害のある方など避難に時間がかかる方は避難を開始し、早めに避難を完了させましょう。 

※ 具体的な避難行動はP29「避難行動判定フロー」で確認しましょう。

⚠ 防災気象情報に注意 大雨により浸水災害の発生するおそれがある場合、気象庁から発表されます。

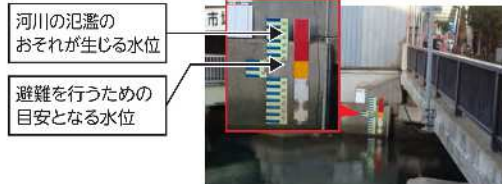
雨が強くなると **洪水注意報・大雨注意報**
災害が起こるおそれがあります。

大雨が降り続くと **洪水警報・大雨警報(浸水害)**
重大な災害が起こるおそれがあります。

さらに激しい大雨が続くと **大雨特別警報(浸水害)**
重大な災害が起こる可能性が非常に高まっているときに発表されます。

! 水位情報に注意

河川の水位情報やライブカメラは、ホームページ等で確認できます。大雨や洪水による河川の氾濫の目安として活用してください。



河川のライブカメラ画像(小倉北区・平和橋)



避難のポイント

避難するときに気をつけること

動きやすく、安全な服装で

ヘルメットで頭を保護し、靴は運動靴にする。裸足・長靴は厳禁。



足元に注意

道路が冠水すると足元が見えにくくなり、側溝やマンホールに気づきにくくなる。長い棒などを杖代わりにするなど、十分に注意して歩く。



川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。



深さに注意

歩行が可能な水深の目安は約50センチ。水の流れが速い場合は20センチ程度でも危険になる。

危ないと判断した場合は、無理をせず、高所で助けを待つ。



逃げ遅れたときには命を守る最善の行動を!!

避難が遅れて家の周りが浸水した場合、水の中を避難するのは危険な場合があります。自宅近くの建物など少しでも浸水しにくい高い場所に移動し、直ちに身の安全を確保しましょう。

